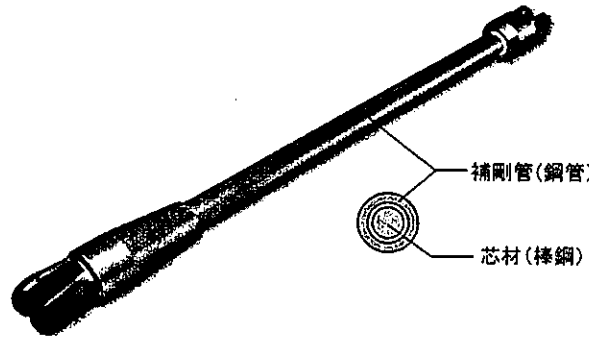


JFEとJFEシビル 新型座屈拘束ブレース開発

細径化で高意匠性

JFEスチールとJFEシビル(社長・藤井善英氏)は27日、耐震補強などに用いる座屈拘束ブレース「J-RODブレース」を開発したと発表した。従

来品の二重鋼管座屈補剛ブレースに比べて外径を2〜3割縮小した細身の形状で、デザイン性に優れるほか、ネジ接合とすることで溶接せずに組み立てできるため生産効率が大幅に向上する。下期以降に本格的な営業活動を開始し、2017年度に1億円の売上げを目標



ネジ接合により生産効率が大幅に向上する新型ブレース

このブレースは柱や梁から伝わる圧縮力を負担する芯材と圧縮時に芯材の座屈を防止するための補剛材で構成。芯材に棒鋼を使用することで外径の縮小を実現している。

通常、外径を小さくすると部材が座屈しやすくなるが、二重鋼管座屈補剛ブレースを応用し、細径部材の独特

自設計法を構築したことで座屈を防止できている。開発期間は3〜4年で、今年3月に日本建築総合試験所から建築技術性能証明を取得した。